

(1) 自立活動の指導内容設定までの流れ

難聴通級指導学級

障害名等 : 難聴
 児 童 : 小学校 第1学年

実
態
把
握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

- ・自発話が多く、物怖じせず活発に話したり行動したりできる。
- ・やや一方的な話し方で、伝わったという安心感や満足感が不足している。
【心理的な安定】
- ・言いたいことを話すことに夢中で、聞き手の反応や問いかけを気にせず、話し続けることがある。
【人間関係の形成】
- ・補聴器を装用し対面の会話はおおむね成立する。
- ・補聴器の扱いにまだ不慣れなどところがある。
【環境の把握】
- ・濁音が入る言葉や長い言葉は聞き誤りやすい。
【環境の把握】
- ・経験した事を身近な単語、3～4語文で話すことができる。
- ・単語の知識にばらつきがあり、動作や擬音語で表現する。
【コミュニケーション】
- ・主語や目的語が抜け、伝わりにくいことがある。
【コミュニケーション】
- ・清音は書ける。濁音、助詞、特殊音節の表記に不正確さがある。
【コミュニケーション】

幾つかの指導目標の中で優先する目標として

指
導
目
標

- ・補聴器の扱いに慣れさせ、語音を正しく聞き取る力を伸ばす。
- ・話が伝わったという安心感、満足感をもたせ、傾聴態度を育てる。
- ・学校生活に必要な語彙や身近な内容の4～5語文程度の文を理解・表現できるようにする。
- ・複数の人とやりとりする楽しさを味わわせる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目		(1)情緒の安定に関する事。	(1)他者との関わりに関する事。 (2)他者の意図や感情の理解に関する事。	(1)保有する感覚の活用に関する事。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2)言語の受容と表出に関する事。 (3)言語の形成と活用に関する事。

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	・補聴器の電池の有無やイヤモルド(耳型)の汚れ、正しい装用状態を自分で確かめる習慣を付けさせる。	・本児の話を相づちや質問を交えながらゆっくり聞くことで、聞き手の反応を意識しながら話すようにさせる。	・紙芝居や絵本を読み聞かせ、粗筋や感想を話し合う。 ・学校や家庭で経験した事を話す、本児の話を短くまとめた文を視写する、日記を書くなどの活動をさせる。	・グループ活動で先生や友達の話の聞いたり相談したりしながらゲームや劇遊びなどの活動に取り組ませる。
----------	--------------------------------------------------	----------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------

資料編
資料 I

児童名	在籍 担当	立 小学校1年 組	時 数	週2回 5時間 個別・小集団
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> 平均聴力レベル右 50dB、左 65dB。両耳に補聴器装着。対面の会話はおおむね成立する。 集団の中では、一斉指示をあいまいに理解したまま行動していることがある。 補聴器の扱いにまだ不慣れな様子が見られる。 自分から活発に話す。聞き手の反応を気にせず、やや一方的に話すことがある。 身近な内容は3～4語文で話すことができる。単語の知識のばらつき、主語等を抜かした話し方が見られ、話題が分からないと話が伝わりにくいことがある。 集団内でも積極的に行動する。状況理解の不十分さから強引に行動することがある。 			
在籍学級での指導と配慮	<ul style="list-style-type: none"> 話し手に注目し、話を確実に聞いたり伝えたりしようとする態度を育てる。 本児の考えを認めながら、周りの様子を見ながら行動する意識を高める。 <配慮>・聞き取りやすい座席位置を工夫し、板書などの視覚的な情報を増やす。 理解の様子を確かめ、必要に応じて個別に活動内容などを説明、助言する。 学級の児童に本児のきこえを説明し、やりとりの工夫などについて理解を促す。 			
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートや面談、授業参観などで、きこえやことば、学習の様子について話し合い、本児の課題や目標を共通理解する。 家庭でのやりとりの配慮点、補聴器の自己管理の習慣などについて、相談、支援する。 			
本人・保護者のねがい	<ul style="list-style-type: none"> 学校で、協調性をもって、みんなと一緒に行動してほしい。 教科の学習についていってほしい。 			

資料編
資料 I

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の扱いに慣れ、語音を正しく聞き取る力を高める。 話が伝わったという安心感、満足感をもたせ、傾聴態度や確実に伝えようとする姿勢を育てる。 学校生活に必要な語彙を拡げ、身近な内容を言葉で理解、表現する力を伸ばす。 グループ活動を通して、複数の人とやりとりする楽しさを味わわせる。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

前期の学習計画	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の状態を確かめる習慣を付ける。 話が伝わったという安心感、満足感をもつことができる。 学校生活に必要な単語の知識を拡げる。 4語文程度の基礎的な構文で、経験した事や身近な内容を話したり書いたり、聞いて理解したりできる。 グループ活動で、指導者や友達の話最後まで聞き、一緒に活動することができる。 	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の電池、イヤモルドを自分で点検する。 本児の話をゆっくり聞き、相づちや共感を示すことで、話が伝わっていることを知らせる。 学校クイズなどで、学校生活で使う単語や文を聞き、質問に答えたり書き取ったりする。 紙芝居や絵本を読み聞かせあらすじを話し合う。 経験した事を話したり絵に描いたり、本児の話短文にまとめたものを視写したりする。 3～6人グループで指導者や友達の話(ルールや問題)を聞きゲームやオエンターリングを一緒に行う。 	<p>p 162 参照</p> <p>p 163 参照</p>
	結 果 ・ 評 価	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の状態は良好。点検の仕方は分かったが、自分で確かめる習慣はまだ付いていない。 言いたいことを話すことに夢中で、聞き手への意識や聞こうとする態度はまだ薄い。引き続き、本児の話をゆっくり聞きながら、確実に伝え合おうとする意識をもたせるようにする。 学校で使う物、教室にある物、いろいろな教室名などの語彙は理解し、使うことができた。 物語の粗筋理解が苦手。挿し絵や自分の経験を手掛かりにすることで、状況理解を促す。 経験した事を身ぶりを交え話したり絵に描いたりすることができた。主語などが抜けた表現、助詞、促音、拗音の表記の誤りが見られる。モデル文を示し、正確に表現できるようにする。 グループ活動では、年上の児童の助けを借りながら意欲的に参加できた。 			
後期の学習計画	目 標	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の状態を確かめる習慣を付ける。 話を確実に伝えたり、相手の話を最後まで聞いたりしようとする意識を高める。 身近な語彙や基礎的な構文の知識を拡げ、4～5語文程度の基礎的な構文で、経験した事を話したり書いたり、読んで理解したりできる。 グループ活動で、指導者や友達の話最後まで聞き、相談したり一緒に活動したりすることができる。 	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の電池、イヤモルドを自分で点検する 指導者が本児の話を共感や質問を交えながら聞き、話の伝わり具合を意識させる。 言葉遊び(ビンゴゲームやなぞなぞ)を行い、関連語や短文を聞いたり書いたりする。 絵本を読み聞かせ、粗筋などを話し合う。 経験した事を話したり、絵日記を書いたりする。(キーワードやモデルとなる文を示す。) 経験に即した生活文を読解する。 3～6人グループで、指導者や友達の話の聞いたり相談したりする。(ゲーム、工作、劇) 	
	結 果 ・ 評 価	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の質問に答えながら話す様子が見られるようになってきた。引き続き、本児の話に共感を示したり質問を交えたりしながら聞き、聞き手への意識を高めるようにする。 3ヒントクイズなどで、身近な言葉なら上位概念や用途などの関連語をヒントとして考えることができた。経験した事を話した後、キーワードを基に4語文程度の文で絵日記を書くことができた。書けた文を読み聞かせることで、促音などの書き誤りに気付くことができた。 グループ活動でゲームリーダーに立候補し、みんなの前でルールを説明することができた。 			

自立活動 学習指導案 (難聴・個別指導)

- 1 児童 ○○ ○○ (第1学年)
 2 指導者 ○○ ○○
 3 本時の目標

※ 下の【 】は
 自立活動の該当する
 区分(項目)を示しています。

- ・補聴器の電池やイヤモルドの状態を確かめることができる。【4(3)】
- ・経験した事を話したり、絵や文で表したりできる。【2(1)、3(1)、6(2)(3)】
- ・紙芝居の読み聞かせを聞き、粗筋を理解できる。【4(1)、6(3)】
- ・短文を聞き、文に合う絵を選ぶことができる。【4(1)、6(2)】

4 展 開

時間	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	備 考
10分	1 補聴器の状態を確かめる。 (1) 補聴器をはずし、電池の残量を電池チェッカーで確かめる。 (2) イヤモルド(耳型)の汚れを確かめる。 (3) 補聴器をはめる。 (4) 1週間の聞こえの様子、補聴器の状態を聞き取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・電池が切れていたら、予備電池と入れ替えさせる。 ・イヤモルドが汚れていたら、ウェットティッシュで掃除をさせる。 ・家でのイヤモルドの洗い方を確認する。 ・イヤモルドがきちんと入っているかを、自分で確かめさせる。 	電池チェッカー ウェットティッシュ
30分	2 「日曜日のこと」を話題に話し、絵日記を書く。 (1) 日曜日にしたこと(楽しかったこと。)を話す。 (2) 話したことを、絵に描く。 (3) キーワードのメモを見ながら、話したことを短い文で表す。 (4) 絵日記を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の話の聞き方 <ul style="list-style-type: none"> ① 相づちを打ったり共感を示したりし、聞いてもらっているという安心感を持たせるようにする。 ② 質問をして話の内容を確認しながら聞き話が伝わっていることを知らせるようにする。 ③ 話のキーワードをメモしながら聞く。 ・話を振り返りながら描く。 ・キーワードが入った3~4語程度の文を考えさせ、指導者が書き取る。 ・誰が、どこでなど文作りのヒントを示す。 ・指導者が書き取った文を視写させる。 	メモ用ノート 絵日記用紙
30分	3 紙芝居の読み聞かせを聞く (1) 紙芝居の読み聞かせを聞く。 (2) 絵を見ながら、登場人物の行動を中心に、粗筋を話し合う。 (3) ばらばらにした紙芝居の絵を話の順に並び替える。	<ul style="list-style-type: none"> ・次の場面の予想などをさせながら聞かせる。 ・「誰が どこで 何をした」を中心に話し合う。 ・粗筋を思い出しながら、絵を並び替えるようにさせる。 	紙芝居 (8場面)
20分	4 かるた遊びをする (1) 本児と教員が交互に読み札を読み合い、かるたを取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み札を読み終わったら絵札を取る約束をする。 ・教員は、読み札を復唱しながら絵札を探す。 	かるた

5 評 価

- ・補聴器の電池やイヤモルドの確かめ方が分かり、自分で確かめることができたか。
- ・経験した事を話したり、絵や文で表したりできたか。
- ・紙芝居の読み聞かせを聞き、あらすじを理解できたか。
- ・短文を聞き、文に合う絵を選ぶことができたか。

自立活動 学習指導案 (難聴・小集団指導)

- 1 児童 1年生～3年生 6人
- 2 指導者 T1:○○ ○○ T2:○○ ○○
- 3 本時の活動 「すごろくあそびをしよう」
- 4 本時の目標 ○児(1年) (他の児童については省略)
 - ・指導者や友達の話最後まで聞くことができる。
 - ・経験した事を3～4語文で書くことができる。
 - ・友達と一緒に仲良く活動できる。
 - ・自分とは違う友達の生活や行動に気付くことができる。
- 5 展開

※ 下の【 】は
自立活動の該当する
区分(項目)を示しています。

- 【2(1)、3(1)、4(1)、6(1)】
- 【6(2)(3)】
- 【2(1)、3(1)(2)、6(1)】
- 【3(1)(2)】

時間	学習内容	指導上の留意点	○児(1年)への配慮
2分	1. 挨拶をする。 ・日直の挨拶に続いて、みんなで始めの挨拶をする。	T1; 全体指導、T2; 個別に対応 ・日直は、みんなに聞こえる大きな声で挨拶をするよう促す。	主にT2が声掛けをする。
20分	2. 大判すごろくを作る。 (1)各自、すごろくのマスに3枚以上書く。 ・この1週間で、したこと、見たこと、楽しかったことなどを思い出し、3～4語文で画用紙に書く。 ・指導者が提示した例文やヒントカードを見て考える。 ・○こ進む、○こもどる、などの特別マスも作る。	・例文(3語文程度)を示す。 ex) やすみじかんに、おにごっこをしました。 ・ヒントカードを示す。 ex) 休み時間に遊んだこと 係や当番の仕事 休みの日にしたこと テレビを見たこと など ・話題が見つからない児童にはT1、T2が学校や家での出来事について質問し、考えさせる。	・話し手を見て聞くように促す。 ・楽しかったことなどを話させ、指導者が3～4語文にまとめ、聞かせる。
20分	3. すごろく遊びをする。 (1)ルールを知る。 (2)マスをみんなで床に並べる。 (3)二人組でマスを進む。 ・二人で交互に大型サイコロをふる。 ・出た目の数だけ進み、マスに書いてある文を二人で読む。 (4)楽しかったこと、協力できたことなどを振り返る。	・順番を守る、二人組で仲良く進むなどの約束を確認する。 ・特別マスを適宜入れさせる。 ・異学年との二人組を作る。 ・二人で一緒に読んだり進んだりさせ、“二人組”の意識を持たせるようにする。 ・二人で協力している場面があったら、指導者がその場で褒める。 ・書かれた文に注目させ、友達のいろいろな生活や行動、自分との違いなどに気付かせるようにする。 ・年上の児童が年下の児童を助けたり協力したりしていた様子を紹介し、協力する良さを感じさせる。	・順番にやるよう言葉掛けをする。 ・「○○さんは、～をしたんだね」と言葉掛けをし、友達の様々な経験に気付かせるようにする。
3分	4. 挨拶をし、片付けをする。		

資料編
資料1

6. 評価

- ・先生や友達の話最後まで聞くことができたか。
- ・経験した事を3～4語文で書くことができたか。
- ・友達と一緒に仲良く活動できたか。
- ・自分とは違う友達の生活や行動に気付くことができたか。